

# 2018年度 まことこども園 自己評価公表シート

## 1・園の教育保育目標

「優しい思いやりのある子」

「明るい元気な子」

「何事にもがんばる子」

を教育保育目標とし、乳幼児期にふさわしい環境の下で、友達や保育者と楽しく充実した生活を営み、そして人間として生きる力の基礎となる、豊かな心、意欲、態度を育てること、すなわち『こころの育ち』を支えることを本園の目標としています。

## 2・本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに、設定した園評価の具体的な目標や計画

### 保育棟

乳児期における愛着形成と、安心した生活を送り情緒の安定を図る。発達過程をよく理解し、一人一人に合った保育を行う。

### 幼児棟

食を大切にし、よく身体を動かすことで、病気に負けない身体・体力作りをする。友達との関わりを楽しみ、意欲を持って何事にも挑戦できる環境作りを行う。

### 職員

研修等に積極的に参加し、より子どもたちを深く理解出来るよう、積極的に学び、知識を養う。保護者との信頼関係の構築に努める。

## 3・評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
愛着形成を基本とし、子供たちが安心して毎日登園出来るよう、一人一人の状況をよく把握する。	A	毎朝、保護者との会話や、送られてくる家庭での様子を確認する事で、一人一人の状態に寄り添った保育が出来ている。子どもの発達段階を理解、把握し個々に合った保育を展開する事で、意欲的に生活出来ている。
食事や運動を基本とし、日々の保育の中で友達や保育者との関わりを楽しむ。子どもたちの意欲を引き出し、音楽・造形・英語など何事も楽しむ。	A	おいしい自園給食をたくさん食べ、戸外でたくさん遊ぶことを基本としている。職員も積極的に戸外に出て子どもたちと遊び、関係を築いてきた。
職員の資質向上の為に、研修等に参加し、乳幼児理解に努める。	A	積極的に研修に参加し、自己研鑽に励んでくれた。研修の内容はレポートにまとめ、職員会議で発表、共有をした。各分野（食育や安全等）の担当になってもらい、多角的に園内を見られるようになった。

怪我、事故、災害時には職員全員が行動できるよう、安全に関する項目の共通理解を図る。また、園内環境整備にも目を配る。	B	災害時に迅速に動ける様、園内で研修は行っている。今後は幼児棟・保育棟合同で行う事も必要である。AEDの使い方などは個々が自信を持って使えるレベルでないといけないため、まだ不十分であり、継続して研修が必要だと感じる。
保護者との信頼関係の構築に努める。	A	お迎え時やおたより帳、参観日、行事を通して保護者との信頼関係を深めている。また、園だより、クラスだより、ホームページ等を使い、園での様子を発信している。

#### 4・園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>こども園に移行して初年度だったが、保護者に対して、こども園の制度や新しいシステムの説明等はしっかり行えたと感じている。保育棟の保護者には連絡帳をシステム化することで、意思疎通が出来、良好な関係を築くことができた。在園の保護者からの質問に関しても随時受け付け対応し、解決出来た。</p> <p>職員も研修に積極的に参加した事で、色々な分野の知識を吸収し園に還元してくれた。こども園になり、今まで受入のなかった0・1歳児の保育も大きな事故もなく無事に終えられたのも、一人一人の指導案作成から保育までが一貫した流れで行う事が出来たからだと感じている。</p> <p>来年度は熊谷ラグビーワールドカップの会場になっているため、地域との交流も深めていきたい。</p>

#### 5・今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
幼児棟と保育棟の職員連携	相互連携を促し、どちらの情報も共有出来るよう取り組んでいく必要がある。幼児棟の行事に保育棟も積極的に参加し、子どもたち同士も交流出来るよう調整をしていきたい。
地域や関係機関との交流や連携	地域の行事等にも積極的に参加していきたい。 消防署との連携（AED使用講習等）
小学校との連携	小学校へよりスムーズに進学出来るよう、行事に参加し、交流をする。 小学校の先生にも子どもたちの園での様子を見て頂き、理解してもらえよう進めていきたい。

#### ◎「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが成果が十分でない
D	取組が不十分である